

I. メイクフレンズ活動の実施報告

メイクフレンズについて

全国国立大学教育学部において文部科学省が推進しているフレンドシップ事業は、さまざまな体験活動を子どもたちと学生がともに行い、ふれあう中で学生が子どもたちの気持ちや行動を理解し、実践的な指導力の基礎を身につけることをねらいとしています。

メイクフレンズは、このフレンドシップ事業の一環として行われた、熊本大学教育学部の授業から発展した学生主体の活動です。メイクフレンズでは、学生である私たちが活動を企画し、そしてその活動を実践したり、そこでの体験を振り返り見直したりすることによって、「子どもを見る目」及び「子どもの考えや行動を予測した企画」のレベルを向上させることを目的としています。現在、活動の場として、秋津公民館、幸田公民館、五福公民館、中央公民館、東部公民館、南部公民館などの社会教育施設にご協力いただき、企画・運営を含めた大学外での体験活動を行っています。



修了証授与の様子

2023（令和5）年度メイクフレンズ活動体系について

熊本大学教育学部2年 緒 方 美 優

本年度は熊本市の6つの公民館と提携させていただき、5班構成で活動を行ってきた。活動体系としては前年度の流れを引き継ぎ、学生が主体となって企画・活動をする単発班、ホール班、年間を通して特定の子どもたちと活動の企画・運営をするプランナー班として活動を行った。

本年度は方針を、「メイクフレンズが目指すべき姿を示したサークルとしての目標」と捉え、「深化」を掲げた。子どもたちとの関わりをより良いものにしたいと考え、公民館での活動はもとより、その土台となる学生間での話し合いや準備、活動の振り返りなどを充実したものにし、より高次で深い段階の活動づくりを目指した。

本年度は感染症の蔓延による様々な制限が解除され、従来の活動を行うことができ、数年ぶりに調理を活動に取り入れた班やプランナーとの合宿を行った班もあった。このような様々なチャレンジができたことを大変嬉しく思っている。より充実した活動をつくり、それを通して子どもたちと関わるのが、学生の学びに繋がることを切に願っている。

最後になりましたが、公民館の先生方、市や県の先生方、そして中山先生をはじめとする教育学部の先生方には、多大なご理解とご支援をいただきました。特に公民館の先生方には、メイクフレンズの活動にご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。私たち学生は多くの方々に支えられ、メイクフレンズを通して、子どもたちと関わるという貴重な経験ができております。今後ともご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



『深化』

○方針とは？

私たち23代は、方針を「“メイクフレンズが目指すべき姿”を示したサークルとしての目標」と捉えた。

メイクフレンズの活動は、子どもとの活動を中心に、班での準備、振り返り会、学生の交流など、多岐にわたっている。それぞれの活動において、一貫してサークルが目指していく方向の共通認識を学生が持っておくことが、活動の一つひとつを充実させるために重要であると考え、「“メイクフレンズが目指すべき姿”を示したサークルとしての目標」と捉えた。

○「深化」とは？

私たち23代は、メイクフレンズの活動を“学生も子どもたちも一緒に成長していける場”にしたい。そして、“学生と子ども、子ども同士、学生同士で互いに高め合える活動”を目指したいと考えている。

メイクフレンズの本質は、「子どもとの関わり」であるとする。初めは積極的には話さなかった子どもが、学生の支援で、積極的に話すようになった、また、プランナー活動であれば、初めは会議で意見が出なかった班で、支援によって自分たちで合意形成をできるようになった、などの成長を大切にしたいのだ。こうした子どもに寄り添った活動を、これまで以上に充実したものにしたと強く思っている。

しかし、これまでのメイクフレンズの活動を振り返ってみると、“活動の質”の向上を妨げているいくつかの課題がある。

- ・学生の活動の一部、特に振り返り会が形式化していること。
- ・仕事の負担が偏っていること。
- ・学年や役職を気にして、意見を言いにくいと感じている学生がいること。

私たちがメイクフレンズの本質と考える「子どもとの関わり」を深め、活動の質を向上させるためには、環境面での課題の改善が必要だ。そして、下記の取り組みを行うことによって、一つひとつの活動の充実化を図り、より子どもとの関わりを意識できる活動を作りたい。そうすれば、子どもたちとの活動を中心に、メイクフレンズ全体の体制や活動がよりよいものになるだろう。

このように、「子どもとの関わり」を意識し、メイクフレンズの本質を深く追求した活動を行うことが、私たち23代が考える「深化」である。

○「深化」のための取り組み

23代では、次の3つの具体的な取り組みを行いたい。

●振り返り会の改善

振り返り会は、半期ごとに定例会2回ほどにわたって行われてきた。各班の活動と振り返りを全体に共有するとともに、論題を設けるなどして、広く班をこえて意見を交え、次の活動をよりよくするための会である。

私たちは充実した活動と振り返りを目指すうえで、次の4点に課題があると考えた。

- ・紙に書いてあるものを班三役が読み上げ、それを聞くだけの形式的な振り返りに留まっている。
- ・特に前期は、同じ時期に各班の活動が終わるとは限らず、定例会で行う限りはどの時期に行ってもどこかの班の活動の準備期間に重なってしまう。子どもとの活動のための準備時間が削られ、質の維持に支障が出ている。
- ・すべての班の本番が終わるのを待つため、本番から振り返り会までに時間が空いてしまう。
- ・発表班内での振り返りは、既に終わっており、他の班の振り返りを聞くことが主となる。班内での振り返りは活動の向上にとって不可欠であるものの、他班の活動を漠然と知っても自分たちの班の活動に活かしにくく、振り返り会の必要性を実感しにくい。特に、形態が異なる班の形式的な振り返りは、自分たちの班の活動には還元しにくい。

私たちは、振り返り会に効果を感じにくいのは、振り返り会の内容がやや抽象的であり、汎用性が低く、自分自身の子どもとの活動に活かしにくいためだと考えた。

そこで、次のように改善したい。

- ・振り返り会のテーマを「子どもとの関わり」とし、具体性のある支援に焦点を絞って、共有する。
- ・まとまった一日に行うのではなく、活動が終わった班から、定例会の冒頭15分程度で行っていく。
- ・論題は、班の中で、全体で協議したいことがあれば、設定する。論題があれば発表のあとに時間を設けて議論を行う。

この改善策のメリットは次の点にある。

- ・子どもと関わる中で、効果を発揮した支援や、想定した効果が得られなかった支援などを共有することで、班の形態が違って自分自身の班の活動に還元することができる。
- ・発表班以外が子どもとの活動を控えている場合にも、班での準備時間を確保できる。
- ・活動が終わった班から振り返り会を行えるため、記憶に新しいうちに支援を全体に共有できる。

●定例会議の設置

現在、サークルとしての体制や活動の仕方を見直し考える機会は、年に一度の方針発表のみであり、定期的にメイクフレンズ全体の運営について話し合い、その時々で改善する時間が取れていない。そのため、係ごとの仕事の偏り、係をこえた仕事内容の共有不足が課題になっている。

この課題を解決するために、以下の概要で開催する定例会議の設置を提案したい。

頻度：月に1回（第1週の昼休み）

参加者：サークル全体の係の代表者1名、班三役、全体三役（参加者は固定しない）

内容：・各係の先月の活動内容の報告と今月の活動予定の共有

→係の人手が足りていないようであれば、必要に応じて係をこえた仕事の分配

・各班の先月の活動内容の報告と今月の活動予定の共有

・各係や三役から活動の課題や困っていることの共有

・各イベントの企画案についての話し合い（パレアフエスタのような活動がある月）

定例会議を設置するメリットは次の点にある。

- ・定期的に係の仕事内容を把握し、仕事の分配などを行うことができるため、係ごとの仕事量の偏りを減らすことができる。

- ・他班の活動について知ること、良い点などを随時自分の班に還元することができる。
- ・月に1回、課題や困っていることを共有し、定期的にサークルの運営を見直すことができる。
- ・各イベントについて、一部の人だけで考えるのではなく、たくさんの人の意見からより良い企画を考えることができる。
- ・各班の代表者が話し合い、イベントの概要を詳しく知ること、各班に参加の呼びかけを行いやすくなり、サークル全体の活動としてイベントをより盛り上げていくことができる。

●系の設置と明確化

現在、メイクフレンズには全体としての係が5つ、班での係がそれぞれにいくつか存在する。メイクフレンズには約120人の学生が在籍し、各班にもそれぞれ約25名の学生が所属しているため、全体三役や班三役だけで活動を行うための取りまとめを全て行うのは難しいと考えられる。そのため、系の存在は、活動をスムーズに、かつ確実にを行うために不可欠である。

現状では全体としても班としても、三役を担う学生の負担は非常に大きく、次の3点の課題があると考えた。

- ・一部の学生（特に役職者）の仕事量が膨大で、一つひとつの仕事に十分な時間が確保できない。

【全体三役が担っている役割】

- ▶メイクフレンズ全体の活動や行事の日程や内容を決め、全体へ連絡する。
- ▶先生方や外部の方とのやり取り
- ▶方針発表、シンポジウムの準備・開催
- ▶パレアフESTA、新歓レク、夏合宿の企画・準備・運営（統括）

※シンポジウムとは、公民館の先生方や総合実践センターの方もお招きし、1年間の活動の報告をする場

【班三役が担っている役割】

- ▶班の話し合いや物品づくりの日程や内容を決め、班員に連絡する。
- ▶話し合いの司会・進行（班によっては、話し合いの内容のメモ・その後の共有）
- ▶物品づくりの材料の準備・物品の管理
- ▶公民館の先生方とのやり取り
- ▶TT作り
- ▶振り返り会の準備・報告

- ・役職を持つ学生と持たない学生との間で、活動に対する意識や認識に差が出ている。

このような状況では、これまで代々重視されてきた、子どもとの活動の充実が難しいものとなるを考える。

そこで、現在ある会計・保険係、定例会係、外部依頼係、お楽しみ係、分科会係の5つの係に加えて、以下の2つの系の設置を提案する。

- ・パレアフESTA係：パレアフESTAの企画や準備、連絡、呼びかけを中心となって行う。

メールでのやり取りが必要な際は、全体三役が行う。

- ・合宿係：夏合宿の企画、準備、運営を中心となって行う。

教育実習の期間も近い為、他の係と協力しながら、合宿に取り組む。

上記の2つの係を新たに設け、メイクフレンズ全体の統括的役割とは異なる役割を他の学生が担

えば、全体三役の負担を軽減できるだけでなく、充実した活動を行えると考える。そして、現在23代の現2年生は31名在籍しており、それぞれの係で人数が飽和状態となっている。また、24代となる現在の1年生も50名以上在籍しており、係を割り当てられても、取り組む仕事がなくなってしまふことが予想される。このことから係の増設が必要であると考えます。

班の係については、班によって状況も異なるため、それぞれの班の状況を考慮しながら検討を進めていきたいと考えている。

○最後に

メイクフレンズの本質、根幹は子どもと関わることであり、それを再認識することで、自分たちの活動の取り組みも、姿勢も、変わると私たちは思う。

子どものことを一番に考えて話し合うのが、本当に楽しくて充実していると日々感じている。この気持ちを持って活動すれば、もっとメイクフレンズが楽しくなると思うし、もっとメイクフレンズを好きになれると思う。そう感じられる活動をメイクフレンズ全体に広げ、次の代にもつないでいきたい。一番に子どもを思ってこそ味わえる楽しさがメイクフレンズにはあると思う。本質に立ち返ることで、このサークルの土台からメイクフレンズを成長させていきたい。

2023年度 メイクフレンズ年間活動一覧

月	日	中央ホール班	秋津ホール班	南部・幸田単班	五福プランナー班	東部プランナー班
6月	3日(土)				開講式	開講式
	10日(土)				会議①	
	17日(土)				会議②	会議①
	18日(日)	織姫・彦星と星祭り ～自分だけの七夕飾りを 作ろう～				
	24日(土)				会議③	会議②
	1日(土)				ミニ本番 (大雨により中止)	会議③ (大雨により中止)
7月	2日(日)		世界に一つだけのうちわ ～ミツシヨンを クリアしてみんなで 願いを届けよう～			
	8日(土)				会議④ (大雨により中止)	
	9日(日)					ブレ (大雨により中止)
	15日(土)				本番	
	22日(土)				閉講式	

	23 日 (日)	作って！飾って！ 鳴らして！ 風鈴で悪霊退治をしよう		夏だ！ わくわく運動会だ！ ～食材を集めて ごほうびパフェを 完成させよう！～		本番
	30 日 (日)					
8 月	13 日 (日)		夏だ！祭りだ！ うちわ作りだ！			
	7 日 (土)					防災合宿
	8 日 (日)					
	14 日 (土)					会議①
11 月	28 日 (土)					会議②
	4 日 (土)					会議③
	11 日 (土)		秋津祭りだヨ 全員集合！！ ～みんなでパティシエを 助けるのだ！～			
	19 日 (日)					ブレ
	26 日 (日)			おいしい秋み～つけた！ ～スイートポテト作りで 秋の食材を楽しもう～		
12 月	2 日 (土)				開講式 会議①	
	3 日 (日)			おいしい秋み～つけた！		本番

	9 日 (土)					会議②	
	10 日 (日)	みんなでスゴロク ～うっかりサンタを 助けよう～					
	16 日 (土)		次世代サンタ 育成プロジェクト ～ミッションを クリアしてみんなも サンタさんになろう～			会議③	閉講式
	23 日 (土)					ミニ本番	
1 月	13 日 (土)					会議④	
	20 日 (土)					本番	
	21 日 (日)	ずーっと使える！ オリジナル万年 カレンダーを作ろう！					
	28 日 (日)		鬼退治のための 豆まきセットを作ろう！				
2 月	3 日 (土)					閉講式	
	4 日 (日)				きらきらふしぎな世界を 作ろう！		
	11 日 (日)				～世界に一つの 万華鏡作り～		

2023年度 メイクフレンズ外部依頼による活動一覧

活動日	依頼主	活動場所	行事名
6月11日	大江校区6B町内子供会	大江小学校体育館	新入生歓迎会
6月18日	黒髪子ども会	坪井中央公園	バルーンアート
11月11日	子育てネットワーク 縁側 moyai	熊本市男女共同参画センター はあもにいい	はあもにいいフェスタ
12月2日	子育てネットワーク 縁側 moyai	花畑公園	おいでよ moyai@マチナカ
12月9日	室園子ども会	室園公民館	クリスマス会
12月10日	徳王子ども会	徳王公民館	クリスマス会
12月17日	秋津1町内子ども会	秋津公民館ホール	クリスマス会
1月27日	熊本県生涯学習推進センター	熊本県民交流館パレア	わくわく！パレアフェスタ vol.21
2月18日	熊本市キャンプ協会	熊本市沿道	熊本城マラソン2023
3月24日	黒髪校区第18町内自治会	坪井中央公園	防災マルシェ

2023年度 中央ホール班 活動報告

前期班長 緒方美優
後期班長 湯浅まつり

▶ホール班とは

工作やレクリエーションなどの活動をする。

〈特徴〉

- ・参加する子どもは1～6年生と幅広い。
- ・活動時間は2時間と限られている。

中央ホール班の年間目標 『わ』

これまでコロナで制限されてきたことに
楽しみながら挑戦できる活動

和

コミュニケーションを通じて、人と人との
つながりを感じられる活動

輪

前期活動一覧

活動月	活動名
6月	織姫・彦星と星祭り ～自分だけの七夕飾りを作ろう～
7月	作って！飾って！鳴らして！ 風鈴で悪霊退治をしよう

織姫・彦星と星祭り ～自分だけの七夕飾りを作ろう～



▶目的

コミュニケーションを通して
お互いの作品を認め合う姿

それぞれが
想いのこもった個性ある作品を作る姿

目的

他の子との交流に挑戦しつつ、完成後の作品を
想像しながら工作に取り組もう。

目的

他の子との交流に挑戦しつつ、完成後の作品を想像しながら工作に取り組もう。



支援

①完成した作品を想像できるようにする支援

②他の子との交流を行うための支援

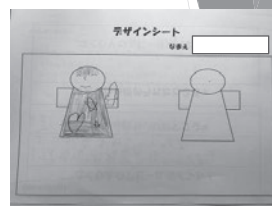
支援①

完成した作品を想像できるようにする支援

工作を始める前に
デザインシートを描かせる。



自分の作りたい作品を
想像しながら
デザインシートを描く姿



実際に子どもが描いたデザインシート

支援②

他の子との交流を行うための支援

「工作タイム」と「お話タイム」を設ける。

工作タイム

自分の作品の工作に集中する時間

お話タイム

自分の作品を見せたり、
他の子の作品を工夫を知ったりする時間

支援②

他の子との交流を行うための支援

「工作タイム」と「お話タイム」を設ける。



「工作タイム」に工作に集中する姿

「お話タイム」にお友だちが工夫した部分の
作り方を聞く姿

支援②

他の子との交流を行うための支援

活動の終盤に「作品紹介タイム」を設ける。



自分が工夫した点を
シートや自分の作品を見ながら説明する姿

お友だちの作品の良いところを探し
学生に伝える姿

▶ムービーの注目点

自分の作品を紹介する様子

子どもたちが話しやすい雰囲気を作る
学生の言動



▶ 6月活動を通して

- ・自分の作りたい作品を想像しながらデザインシートを描く姿
- ・お友だちが工夫した部分の作り方を聞く姿
- ・自分が工夫した点を説明する姿
- ・お友だちの作品の良いところを学生に伝える姿



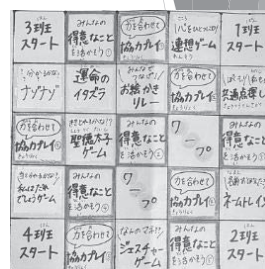
目的

他の子との交流に挑戦しつつ、完成後の作品を想像しながら工作に取り組もう。

後期活動一覧

活動月	活動名
12月	みんなでスゴロク！ ～うっかりサンタを助けよう～
1月	ずーっと使える！ オリジナル万年カレンダーを作ろう

みんなでスゴロク！ ～うっかりサンタを助けよう～



▶ 目的

①お互いの長所や好きなものを認め合いレクリエーションに活かしていく中で、思いやりのあるコミュニケーションを取る。

②高い意欲と目標をもって協力して活動に取り組む。



目的

お互いを知ることで思いやりを育み、団結してサンタさんを助けよう。

目的

お互いを知ることで思いやりを育み、団結してサンタさんを助けよう。



支援

①お互いの長所や好きなものを知り、それを活かせる場を作ること

②子どもが世界観に入り、団結できるように工夫すること

支援①

お互いの長所や好きなものを知り、それを活かせる場を作る

自己紹介を兼ねたアイスブレイクの設定

コマを進める前の話し合いの時間の設定

「得意を活かそうマス」の設置



好きなものや得意なことについて話したり、それをレクリエーションで活かそうとしている姿

支援②

子どもが世界観に入り、団結できるよう工夫する

各レクリエーションの間に短い導入を挟むことで、流れに一貫性をもたせる。

「協力プレイマス」の設置



サンタさんを助けたいという思いを持ち、協力して各レクリエーションに一生懸命取り組む姿

▶ムービーの注目点

①「協力プレイマス」でのレクの様子

- ・班のメンバーで協力してレクに取り組む様子
- ・学生による前向きな声掛け



▶ムービーの注目点

②「得意を活かそうマス」でのレクの様子

- ・班のメンバーの一人
(自己紹介で絵が得意だと話していた子)
が描いた絵を当てる様子
- ・描いた絵をすぐに当ててもらえた子の嬉しそうな反応



▶ 12月活動を通して

- 好きなものや得意なことについて話している姿
- お互いの得意なことをレクリエーションで活かし、褒め合う姿
- サンタさんを助けるという目標に向かって、協力してレクリエーションに取り組む姿



お互いを知ることによって思いやりを育み、団結してサンタさんを助けよう

▶ 年間目標『わ』

- 前期、後期を通して活動に参加している姿
- 班のメンバーや学生と楽しそうに話している姿



- 声を掛け合い、協力してレクに取り組む姿
- 工作でお友だちが工夫した部分の作り方を聞く姿



ご清聴ありがとうございました。



前期 7月活動の写真



後期 1月活動の写真

2023年度 中央ホール班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 緒 方 美 優

今年度の中央ホール班の年間目標は、「わ」とした。この年間目標には、活動に参加する子どもたちが、これまで感染症の蔓延によって制限されてきたことを楽しめる活動にしたいという意味の「和」と、コミュニケーションを通して人と人とのつながりを感じられる活動にしたいという意味の「輪」という2つの意味を込めた。

前期は、6月と7月の計2回、工作に取り組む活動を行った。ここでは、6月の活動について報告する。6月活動「織姫・彦星と星祭り～自分だけの七夕飾りを作ろう～」では、紙コップを土台に織姫や彦星の人形を作った。この活動で、子どもたちがコミュニケーションを通して、お互いの作品を認め合う姿と、それぞれが想いのこもった個性ある作品を作る姿を見たいと考え、「他の子との交流に挑戦しつつ、完成後の作品を想像しながら工作に取り組もう」という目的を設定した。この目的を達成するために、2つの支援を考えた。

まず1つ目は、子どもが完成した作品を想像できるようにするための支援として、工作に入る前にデザインシートを描かせた。この支援を行った結果、自分の作りたい作品を想像しながらデザインシートを描く姿が見られた。更に、デザインシートを見ながら工作に取り組み、スムーズに自分の思い描いた作品を作る姿もあった。2つ目は、他の子との交流を行うための支援として、「工作タイム」と「お話タイム」を設けた。工作タイムは自分の作品の工作に集中する時間、お話タイムは自分の作品を見せたり、他の子の作品の工夫を知ったりする時間である。この支援を行った結果、工作タイムでは工作に集中する姿が、お話タイムでは他の子が工夫した部分の作り方を聞き、自分の工作に取り入れる姿が見られた。加えて、他の子との交流を行うための支援として、活動の終盤に「作品紹介タイム」も設定した。作品紹介タイムは、完成した自分の作品を班で紹介する時間である。この支援を行った結果、自分が工夫した点をデザインシートや自分の作品を見ながら説明する姿や他の子の作品の良いところを探し、学生に伝える姿が見られた。これらの結果から、この活動の目的である「他の子との交流に挑戦しつつ、完成後の作品を想像しながら工作に取り組もう」が達成できたと考え、次の活動に今回の支援を生かすこともできた。

また、早く工作が終わった子供がもう一つ織姫の人形を作る様子や初対面の子どもと学生、子ども同士が会話をし、コミュニケーションを取っている様子も見られ、年間目標である「わ」の達成に近づくことができたと考えている。今後も目標や目的を持ち、子どもたちが楽しめる活動を作っていきたい。

2023年度 中央ホール班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 湯 浅 まつり

後期ホール班は、「わ」という年間目標のもと、活動の企画・運営を行った。「わ」には、「昨年度まで感染症の蔓延によって制限されてきたことを、子どもたちが楽しめるような活動にしたい」という意味で、「和む」の「和」、また、「対面でのコミュニケーションを通じて、人と人とのつながりを感じられるような活動にしたい」という意味で、「輪っか」の「輪」、という二つの意味が込められている。

後期中央ホール班では、12月・1月の計2回活動を行った。今回は12月の活動を報告する。12月の活動「みんなでスゴロク！～うっかりサンタを助けよう～」では、「子どもたちに配るためのプレゼントを失くしてしまったうっかりサンタさんのために、プレゼントを集めよう」という導入のもと、大規模なすごろくを行った。

この活動では、子どもがお互いの長所や好きなものを認め合い、各レクリエーションに活かしていく中で、思いやりのあるコミュニケーションを取ることと、「サンタさんを助けたい」という目標を持って意欲的に、協力しながら活動に取り組むことができるようにしたいと考えた。そのため、今回の目的を「お互いを知ることによって思いやりを育み、団結してサンタさんを助けよう」と設定した。

目的を達成するための支援として、「お互いの長所や好きなものを知り、それを活かせる場を作ること」と、「子どもが世界観に入り、団結できるように工夫すること」が必要だと考えた。まず、前者に対する支援として、4つの文章の中から1つの嘘を見抜く、自己紹介ゲームをアイスブレイクの中に取り入れるようにした。また、駒を進める前に話し合いの時間を設定し、子どもたちが得意なこと好きなことを活かせるようにした。さらに、いくつかの選択肢の中から、自分が得意なものを1つ選び、挑戦できるマスである、「得意を活かそうマス」を設置するようにした。結果として、好きなものや得意なことについて話す姿、それをレクリエーションで活かそうとしている姿が見られたことから、子どもたちはお互いの長所や好きなものを認め合うことができていたと考える。次に後者に対する支援として、各レクリエーションの間に短い導入を挟むことで、一連の流れに一貫性を持たせるようにした。また、班内のメンバーで協力することが必要なレクリエーションを行う、「協力プレイマス」を設置するようにした。結果として、班のメンバーで声を掛け合い、協力しながらレクリエーションに取り組み、終わりの導入では、サンタさんのためにプレゼントを無事集められたことを喜ぶ姿が見られたことから、子どもたちは世界観に入り込み、団結できていたと考える。

後期中央ホール班では、子どもたちが班のメンバーや学生と楽しそうに話す姿が見られた。また、前期の活動に参加していた子どもが後期の活動にも参加している姿も見ることができたことから、1つ目の年間目標である「和」が達成できたのではないかと考える。さらに、声を掛け合い、協力してレクリエーションに取り組む姿、前期の工作では、工夫した部分について話す姿が見られたことから、2つ目の「輪」も達成できたのではないかと考える。今後も子どもたちが楽しみ、人とのつながりを感じられる活動ができるよう、学生一丸となって企画・準備をしていきたい。

2023年度 秋津ホール班 活動報告

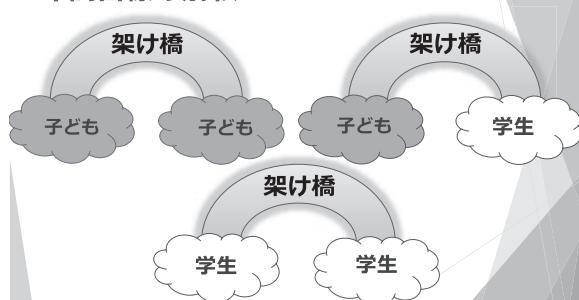
前期班長 築山明宗
後期班長 瀬崎那月

秋津ホール班 年間目標

『架け橋』

活動に携わった子どもと学生、
子ども同士、学生同士など、
すべての人たちをつなぐ
「架け橋」となるような
安全かつ楽しい社会的な活動

年間目標の解釈



前期活動一覧

活動月	活動名
7月	世界に一つだけのうちわ ～ミッションをクリアしてみんなで願いを届けよう～
8月	夏だ！祭りだ！うちわ作りだ！

世界に一つだけのうちわづくり ～ミッションをクリアして願いを届けよう～

○活動概要

- ・日程 7/2 10:00～12:00
- ・場所 秋津公民館
- ・参加人数 子ども 39人 学生22人

○活動内容

- ・工作+レクリエーション
- ・うちわづくり
- ・金魚すくいゲーム
- ・風船運びリレー

目的

活動を通して、輝く姿をみんなで認め合いながら、
自分の目標に向かって楽しく活動する

○目的に込めた想い

自分の得意な点を生かしている姿や
試行錯誤して頑張っている姿を認め合う

レクリエーションをクリアする、理想のうち
わを作る等の目標を達成しながら楽しく活動

支援①

自分の作品を紹介する時間を設ける

自分の作ったうちわを紹介する時間を設けることで、
こども同士や学生とのコミュニケーションの場をつくる



他のひとの工夫やこだわりの
ポイントを知り、良さを認め合う

支援②

イラストシート・デザインシートを用意する

イラストシートをみることで、夏のイ
メージを膨らませ工作のヒントにする

デザインシートに書き込むことで、自
分の持っているアイデアを可視化す
ることができる

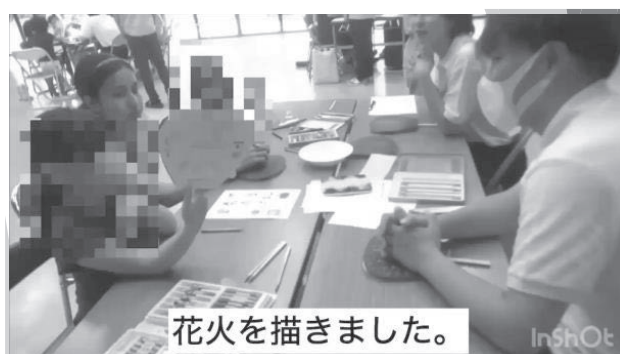


自分の理想のうちわづくり



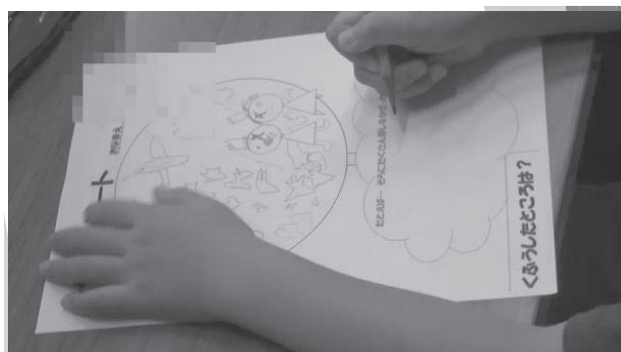
ムービー①

- ▶こどもが自分が作ったうちわの良さを
紹介し、周りが反応している様子



ムービー②

- ▶デザインシートに書き込みをしている
様子



7月活動を通して

自分の考える理想のうちわを試行錯誤して作り上げる姿

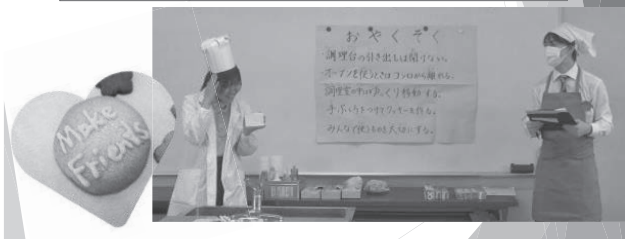
子どもと学生、子ども同士が交流し、楽しむ姿

活動を通して、輝く姿をみんなで認め合いながら、
自分の目標に向かって、楽しく活動する

後期活動一覧

活動月	活動名
11月	秋津まつりだヨ全員集合！！ ～みんなでパティシエを助けるのだ！～
12月	次世代サンタ育成プロジェクト！ ～ミッションをクリアしてみんなもサンタさんになろう～
1月	鬼退治のための豆まきセットを作ろう！

秋津まつりだヨ全員集合！！
～みんなでパティシエを助けるのだ！～



子どもたちを楽しませたい！

楽しんでいるかの判断基準は

『笑顔』

笑顔で活動を終えるためには

『協力』が必要

協力をするためには

役割分担をして自分の役割を果たすことから！

目的

子どもたちが自分の役割を果たし、お互いに助け合う
ことで達成感を味わい、笑顔で活動を終えること

目的

子どもたちが自分の役割を果たし、お互いに助け合う
ことで達成感を味わい、笑顔で活動を終えること

《支援》

①オープンを開ける瞬間はみんなで立ち会う

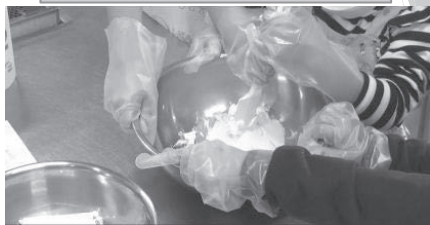
②役割分担をする時間を設ける

支援① オープンを開ける瞬間はみんなで立ち会う



クッキーを作った仲間みんなで完成を喜び、達成感を味わう姿

支援② 役割分担をする時間を設ける

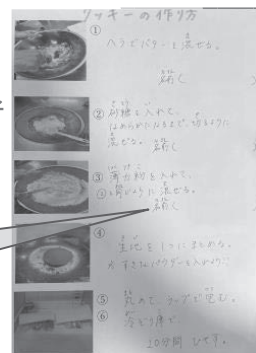


全員が平等にクッキー作りに参加し、役割を越えて助け合う姿

ムービーの注目点

学生が役割について説明をしている様子

担当する子どもの名前を書く欄を設けた



11月活動を通して

全員が平等にクッキー作りに参加し、役割を越えて助け合う姿

クッキーを作った仲間みんなで完成を喜び、達成感を味わう姿

他の人の作ったクッキーを見て、すごい！と褒め合う姿

子どもたちが自分の役割を果たし、お互いに助け合うことで達成感を味わい、笑顔で活動を終えること



ご清聴ありがとうございました！



前期 第1回活動（7月）



後期 第3回活動（1月）

2023年度 前期秋津ホール班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 築山 明 宗

今年度の秋津ホール班の年間目標は、「架け橋」と定めた。この目標には、活動に携わる子どもと子ども、学生と子ども、学生同士などすべての人たちをつなぐような活動にしたいという思いが込められている。このような思いのもと、この一年間人と人をつなぐためにはどのような活動・支援を考えれば良いか仲間とともに試行錯誤してきた。

前期活動は、7月と8月の計2回の活動を行った。7月には、「世界に一つだけのうちわづくり～ミッションをクリアして願いを届けよう～」と題し、工作を中心にレクリエーションを2種企画した。子どもが自身の作ったうちわを活用したレクリエーションを行うことで、作品により愛着が生まれることを意図し、レクリエーションは作品を活用した「風船運びリレー」と「金魚すくい」を企画した。活動本番には、39名と非常に多くの子どもたちが参加してくれた。

7月活動の目的は、「活動を通して輝く姿をみんなで認め合いながら自分の目標に向かって楽しく活動すること」とした。学校では見られない、得意なことを生かす姿や工作を試行錯誤してより良いものにしようとする姿などの「輝く姿」を子供と学生などみんなで認め合うこと。理想のうちわを作り上げる、みんなで協力してレクリエーションをクリアすることなどの目標を達成しつつ、楽しく活動することを期待して、本目的を設定した。

本目的を達成するための支援を2つ抜粋して紹介する。1つ目は作品を紹介する時間を設けたことである。この支援により子ども同士や学生との間にコミュニケーションが生まれ、作品の良さや工夫点に気づき互いに認め合う場になると考えた。2つ目の支援はイラストシート・デザインシートの活用である。夏をテーマにしたイラストシートを配布することで、子どもたちがそこから着想を得やすいようにした。また、デザインシートを活用することで、こどもが工作に入る前にアイディアを可視化し、完成形をイメージしやすいようにした。この支援により、理想のうちわを作るという目標が達成されやすくなると考えた。実際、これらの支援を活用して活動に取り組む姿が多々見られた。

上記に挙げた支援のほかにも、劇を用いて場を盛り上げ、打ち解けやすくする支援、レクリエーションでの安全面の支援、そのほか子どもたちが楽しめるような工夫を考えた。これらの支援により、本目的は達成されたと考える。また、8月活動では、7月活動をレベルアップさせた内容で活動を行った。7月の改善点を改め、レクリエーションを改良、新たに設定することで前回よりも内容の濃いものになっていたと考える。どちらの活動でも学生や子ども間の交流、活動を楽しみ「また来たい！」と笑顔で活動を終える姿をみることができたため、年間目標に根差した、子どもと学生双方にとって非常に有意義な活動になったのではないかと考える。



2023年度 秋津ホール班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 瀬 崎 那 月

後期は前期に引き続き、年間目標「架け橋」のもと、11月、12月、1月の3回活動を行った。今回は、11月の活動について詳しく報告をする。

11月の活動は、あるハプニングによりクッキーを作れなくなってしまったパティシエをみんなで助けようという導入のもと、クッキー作りを行った。わたしたち秋津ホール班は、活動することによって、子どもたちを楽しませたいという気持ちを強く持っている。そこで、子どもたちが活動を楽しんでくれているかという判断基準は、“笑顔”にあると考えた。子どもたちが笑顔で活動を終えるためには、みんなが“協力”をする必要があると思う。協力をするためには、役割分担をして、まずは自分の役割を果たすことからであると考えた。そのため、子どもたちが自分の役割を果たし、お互いに助け合うことで達成感を味わい、笑顔で活動を終えることを目的とし、それを達成するためにどのような工夫ができるか話し合った。

この目的を達成するために考えた支援を2つ紹介する。

1つ目は、クッキーが焼きあがってオーブンを開ける瞬間はクッキーを作ったみんなで立ち会うようにすることだ。クッキーが焼き上がりそうになったら、担当の学生が子どもたちをオーブンの前に集めた。その結果、クッキーが焼きあがる10秒前から自然と子どもたちからカウントダウンが始まり、オーブンを開けた瞬間には歓声が上がった。そこには子どもたちの嬉しそうな表情があった。クッキーを作ったみんなで達成感を味わうことができたと思う。

2つ目は、クッキー作りを始める前に役割分担をする時間を設けることだ。レシピに担当する子どもの名前を書く欄を設け、学生が役割について分かりやすく説明をした。その結果、積極的な子どもだけに偏ることなく、子どもたち全員が平等にクッキー作りに参加することができた。それに加えて、担当ではない時にはボウルを押さえてあげるなど、役割を越えて助け合う様子を見ることができた。

11月活動を通して、子どもたち同士で助け合い、みんなでクッキーの完成を喜び、他の人の作ったクッキーを見て褒め合う姿も見ることができた。活動の目的を達成できたことをうれしく思っている。

この1年間、秋津ホール班が行ってきた活動は、年間目標の通り、子どもと学生、子ども同士、学生同士の「架け橋」になることができたと感じている。私たちは活動から多くの学びを得ることができ、年間目標も達成することができた。



2023年度 南部・幸田単発班 活動報告

前期班長 出口みのり
後期班長 濱崎 麻衣

単発班について

- ・活動回数: 年3回(前期1回、後期2回)
- ・活動内容: レク・工作・調理
- ・活動までの流れ:
話し合い→プレ活動→本番①→本番②

前期活動

〈7月〉
夏だ！わくわく運動会だ！
～食材を集めてごほうび
パフェを完成させよう！～

活動内容

メイン

〈運動会(レク)〉

- ・4つの競技をチーム対抗で行う
- ・競技の順位に応じて、パフェに使いたい食材を選ぶ

〈調理〉

集めた食材を使って
パフェを作り、
友達と楽しく食べる

目的について

運動会での敵や味方にかかわらず、
声をかけ合いながら、相手を認め合う姿

運動会自体を楽しみ、
最後までやり遂げる姿

相手を尊重しつつ、積極的に取り組むことで、
協力することの大切さを学ぼう。

活動前の支援(1)

- ・チームでの運動会の目標を話し合って書く。
- ・食材を希望する順番を話し合って決める。

〈結果〉

- ・チームで成果を出そうと頑張る姿。
- ・実際に食材を選ぶときにスムーズに動けた。

デザインシート①

☆ 田の運動会の目標は？

☆ 材料の希望順を決めよう！

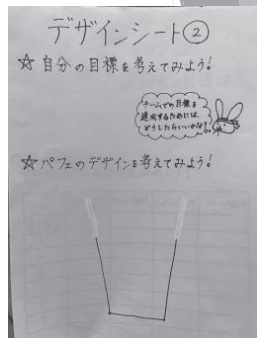
希望	競技部門	リレー部門	トビウタ部門	フルトン部門
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

活動前の支援(2)

- ・チームの目標を達成するための自分の目標を書く。
- ・作りたいパフェのデザインを考えて描く。

〈結果〉

- ・チームのために自分ができることを考える姿。
- ・パフェを作るときに参考に。



話し合い時の支援

～デザインシート記入時～

- ・子どもの意見を尊重し、学生が介入しすぎない。
- ・一人一人の意見を聞き、最終的にチームの全員が納得できるような話し合いを促す。

〈結果〉

- ・6年生が4年生の希望を優先して譲り合う姿。
- ・次の項目では、譲ってくれた人の意見を尊重する姿。

運動会の支援(1)

～ゲームの最中～

- ・チーム関係なく、学生が率先して応援する。
- ・他のチームに対するネガティブな発言をせず、相手を尊重するよう促す。

〈結果〉

- ・学生を見て、他のチームも応援し始めた。
- ・自ら、他のチームのいい所を見つけている姿。

運動会の支援(2)

～ゲーム終了後～

- ・勝っても負けても、子どもたちが前向きになれるような声掛けをする。

例)○○上手だね！、負けても大丈夫だよ！次頑張ろう！

〈結果〉

- ・上手くできなかった友達に対して、励ましの言葉を掛ける姿。

調理の支援

- ・食材を平等に配分するため、一人一人の分量の確認、食材が食べられない子どものサポートをする。



〈結果〉

- ・一人分の量を考えて取り分ける姿。
- ・苦手なものを交換し合うなど、互いに配慮し合う姿。

前期活動を通して

〈改善点〉

- ・運動会のルールが複雑で、子どもがあまり理解できていなかった。
→理解できているか確認する、繰り返し説明する。
- ・話し合いをまとめるのが難しく、時間がかかった。
→時間設定や話し合いの仕方を工夫する。

前期活動を通して

〈良かった点〉

- ・仲間と交流したり協力したりすることの楽しさを感じてもらうことができた。
- ・子ども同士が尊重し合ったり、ポジティブな発言をしたりする姿が見られた。

相手を尊重しつつ、積極的に取り組むことで、協力することの大切さを学ぼう。

目的達成！

⇒子どもが気付きを得て、成長につながる支援を考える



後期活動

〈11月〉

おいしい秋み～つけた！
～スイートポテト作りで秋の食材を楽しもう～

〈2月〉

きらきらふしぎな世界を作ろう！
～世界に一つの万華鏡作り～

活動内容

1・2班

さつまいもの
買い出しに行く

道具や材料の
準備をする

3・4班は準備が先、買い出しが後

みんなで
スイートポテト作り

実食

目的について

ルールを守り
助け合いながら、
積極的に調理する姿

「調理の楽しさ」
・調理そのもの
・友達・学生も含めたみんなで
一緒に調理すること
・旬の食材を使い調理すること

安全を意識し協力しながら、
調理の楽しさを知ろう。

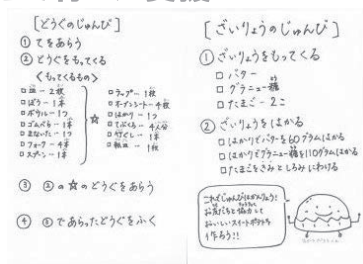
話し合いの支援

こどもたちからの積極的な参加のために、協力や
話し合いに学生が介入しすぎないように見守る。

〈結果〉

- ・役割分担しながら率先して行う姿
- ・相手を尊重する姿

合わせて行った支援



準備シート

- ・準備に必要なこと(必要な道具と材料)を整理
- ・役割分担などをしやすく

〈結果〉

それぞれの担当を決める姿

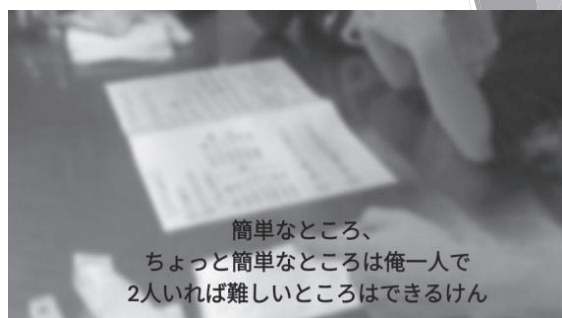
ムービー1

〈ムービーの場面〉

☆準備の際それぞれの役割を決めている場面

〈ポイント〉

☆「これ持ってくる」「じゃあ私はこれ」など
こどもたち自身から率先して役割分担を
考える姿



簡単なところ、
ちょっと簡単なところは俺一人で
2人いれば難しいところはできるけん



よし、じゃあここに書いてあるのを見て
ーじゃあまず皿
ーじゃあまずバター

調理・実食の支援

学生とこどもたち、こどもたち同士の会話が
生まれるように学生が会話を積極的に行う。



〈結果〉

- ・他の子が探している道具を取ってあげるなど
助け合い、一緒に作業し取り組む姿。
- ・みんなで会話をしながら楽しそうに
スイートポテトを作ったり食べたりする姿

ムービー2

〈ムービーの場面〉

☆調理中、スイートポテトの生地を混ぜて
いる場面

〈ポイント〉

☆「良いにおいしてきた!」「そこあるよ」
「いいね!」など褒め合ったり、
教え合ったりして自然に会話を楽しむ姿



さつまいものにおいがする
あ、いい香りしてきた

後期活動を通して

〈改善点〉

- ・学生と子どもが一对一になる場面が多かった
→人数作業内容の見直し、
班のみんなでの配置、関わる意識
- ・調理をするときの余裕を持った時間配分

後期活動を通して

〈良かった点〉

- ・「楽しかった、家でも作りたい」と言ってくれた子もいて、調理の楽しさを知ってもらえた

安全を意識し協力しながら、目的達成！
調理の楽しさを知ろう。

- ・ブレで危険な箇所や注意が必要な作業を確認していたことで、適切な支援を行っていた

⇒安心して楽しむことができる支援を考える

ご清聴ありがとうございました！



2023年度 前期南部・幸田単発班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 出口 みのり

前期南部・幸田単発班では、7月に「夏だ！わくわく運動会だ！～食材を集めてごほうびパフェを完成させよう！～」の活動を、南部公民館と幸田公民館で行った。

この活動の内容は、運動会をチーム対抗で行い、各競技の順位に応じてチームの希望をもとに食材を集めていき、その食材を使ってパフェづくりを行うというものである。この活動では、運動会をメインとし、敵味方関係なく認め励まし合って協力してほしい、一人一人が運動会自体を楽しんでほしいという思いから、見たい姿を「声をかけ合いながら、相手を認め合い、最後までやり遂げる姿」と設定した。その実現のために、目的を「相手を尊重しつつ、積極的に取り組むことで、協力することの大切さを学ぼう」とした。そこで、目的を達成するためにいくつかの支援を行った。まず、活動前の支援として、デザインシートを二つ用意した。シート①は、班での話し合いをもとに、チームでの運動会の目標や、パフェで使いたい食材の希望について記入するようにした。ここでは、学生は介入しすぎないよう意識しながら、適宜、一人一人の意見を聞いているか、全員が納得するものになっているか声掛けを行った。その結果、互いの意見を尊重し合う姿や、その後も目標を意識し協力して活動に取り組む姿が見られた。シート②は、個人の目標と自分が作りたいパフェのデザインを書くようにした。チームの目標を達成するために、自分にできることを考える姿が見られた。また、事前にデザインをしたことで、実際にパフェを作る際はスムーズに動くことができた。次に、運動会の支援として、競技中は、学生がチーム関係なく応援する姿を見せたり、他のチームに対するネガティブな発言はせず、相手を尊重するよう促したりした。子どもたちは、学生の姿を見て他のチームも応援し始め、自ら相手の良いところを見つける姿も見ることができた。また、競技後には、チームが勝っても負けても、子どもたちが前向きになるような声掛けを行った。その結果、上手くできなかった友達を励ます様子が見られた。最後に、調理の支援として、平等に配分するよう促したり、食べられない食材がある子どものサポートをしたりした。苦手なものを交換し合うなど、自分たちで互いに配慮することができていた。

全体を通して振り返ると、子どもたちには、仲間と交流したり協力したりすることの楽しさを感じてもらえたと思う。運動会のルールが複雑になってしまい理解が難しい部分もある中で、子どもたちは最後まで一生懸命に取り組み、尊重し合ったりポジティブな発言をしたりする場面が多く見受けられたため、今回の目的である「相手を尊重しつつ、積極的に取り組むことで、協力することの大切さを学ぼう」が達成されたと感じている。今回の活動を生かし、子ども自身が気づきを得ることができ、さらにそれを成長に繋げていくための支援を考えながら、今後も活動計画を行っていきたい。

2023年度 後期南部・幸田単発班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 濱 崎 麻 衣

後期南部幸田単発班では、11月に「おいしい秋み～つけた！～スイートポテト作りで秋の食材を楽しもう～」の活動を南部公民館と幸田公民館で行った。

この活動の内容は、班に分かれて調理の準備とさつまいもの買い出しを行った後、スイートポテト作りを行い、みんなで実食するというものである。この活動では、調理そのもの・同じ班の子や学生といったみんなで調理すること・旬の食材を使って調理すること、といった3つの調理の楽しさを知ってもらいたいと考えた。また、買い出しとして公民館の外に出ることや調理という活動を行うことをふまえて、楽しく活動を終えるには、友達と協力しながら、ルールを守りけがなどなく終える必要があると考えた。そのため、見たい姿を「ルールを守り助け合いながら、積極的に調理する姿」とし、その見たい姿の実現のために、「安全を意識し協力しながら、調理の楽しさを知ろう」という目的を設定した。

そこで、目的を達成するために、調理の準備と調理・実食の際にそれぞれ支援を行った。準備の際の支援は、こどもたちの積極的な参加のために、話し合いなどで学生が関与しすぎないようにしたことである。その結果、「これは僕がする。」「これはしてもらっていい？」など率先して役割分担をする姿を見ることができた。自分の役割を主張するだけでなく、したい作業が被ったら譲り合ったり一緒に作業したりと、相手を尊重する姿を見ることができた。また、準備する道具や材料、作業を整理した準備シートを用意する支援も合わせて行ったことで、役割分担に生かしてもらうだけでなく、準備をスムーズに進めることにつながった。調理・実食の際の支援は、こどもたち同士、子どもと学生の会話を活発にするために、学生から積極的に会話を行うようにしたことである。その結果、調理・実食の時に、こどもたちが自然な会話を楽しむ姿を見ることができた。特に調理の際は、「良い匂いがする！」といった気づきを伝え合ったり、学生が「ここに〇〇あるよ」と教えたら、周りの子も「ここにもあるよ！」と真似して教え合ったり、できあがっていくスイートポテトに対し「いいね！」「おいしそう！」など褒め合ったりといった姿を見ることができた。

全体を通して振り返ると、人数や作業内容の関係上、こどもと学生が一对一で関わる場面が多く、班のみんなで行うことの難しさを感じたり、一回目の活動では、予定よりも作業に時間がかかってしまい予定時間を過ぎてしまったため、時間配分の難しさを感じたりした。そのため、今回の活動を生かし改善していきたい。しかし、活動が終わった後、「楽しかった！家でも作ってみたい！」とってくれる子も多く、活動で使ったレシピシートをほしいと言ってくれる子もいた。そのため、こどもたちに目的に設定した「調理の楽しさ」を知ってもらえたと考える。また、活動前のプレで危ない箇所や難しい作業を細かく確認していたため、こどもたちへのアドバイスや支援に適切に生かすことができていた。今回の活動をふまえて、こどもたちが安心して楽しく活動を終えることができるようにその都度改善しながら、引き続き話し合いや事前準備を行っていきたい。

2023年度 五福プランナー班 活動報告

前期班長 本村優奈
後期班長 大原菜々子

▶プランナー活動とは

会議 準備 本番

プランナー
小学校4,5,6年生
1年間を通じて本番のイベントの
企画、準備、運営を行う

▶プランナー活動とは

会議 準備 本番

学生
企画中の話し合いや物品づくりの
サポートを行う

▶プランナー活動とは

会議 準備 本番

お客さん
小学校
1,2,3年生
本番活動
に参加

▶プランナー活動とは

会議 準備 本番

- ・ 本番のイベントのテーマ
- ・ 実施するレク
- ・ ルール
- ・ 必要な材料

などをプランナー同士で話し合う

▶プランナー活動とは

会議 準備 本番

主に物品製作

材料を学生が用意し、
プランナーは試行錯誤
しながら本番で使用する
物品を仕上げていく。

▶ プランナー活動とは

会議

準備

本番

イベント当日
小学校1,2,3年生
が参加

プランナーは開
会式、閉会式、
お客さんの誘導
など運営側とし
て活動する。

▶ 五福プランナー年間目標

成長

プランナー班特有の利点を
「継続的」な関わり合いができること
であると考え、
「活動が終わるときにプランナーが
成長していること」
を最終的な目標とした。

▶ 夏期活動

[活動名]

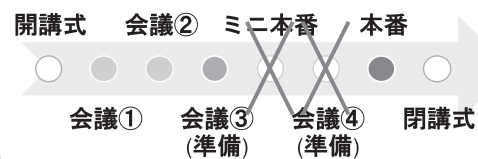
「笑顔いっぱい 福いっぱい 五福の夏祭り」

[活動内容]

3班で3つのレクリエーション
(ヨーヨー、射的、輪投げ)

▶ 夏期活動

中止 中止



夏期活動は大雨のため2回の前日中止

▶ 夏期活動目標

プランナーの

成長

継続的
な支援

+

連携的
な支援

▶ 夏期活動目標

成長

継続的
な支援

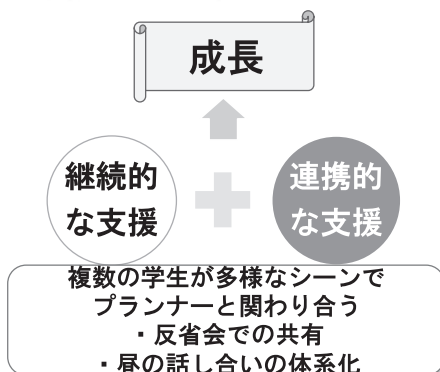
+

連携的
な支援

プランナーの成長過程を見守る支援

- ・ミニレポート
- ・振り返りシート
- ・話し合いの記録化

▶夏期活動目標



▶振り返りシート (継続的な支援)

プランナーに毎回の活動時に統一した項目で振り返りを促す

回収したシートに学生がフィードバックを書き次回に返却

▶振り返りシート (継続的な支援)

毎回の活動時
振り返り

フィードバック
して次回返却

成長の可視化

▶振り返りシート (継続的な支援)

▶話し合いの記録化 (継続的な支援、連携的な支援)

活動期間が長く、
プランナー・学生
ともに
活動全てに参加で
きるとは限らない



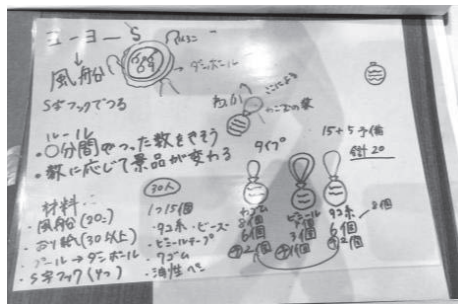
▶話し合いの記録化 (継続的な支援、連携的な支援)

活動内の会議や
活動後の反省会
に関して
記録を体系的に
管理する

活動の状態のス
ムーズな把握



▶話し合いの記録化 (継続的な支援、連携的な支援)



▶話し合いの記録化 (継続的な支援、連携的な支援)



▶夏期活動を通じて

- ・中止2回という短い活動期間の中でも、プランナーが積極的に発言するようになったり
- お客さんのことを想像した発言が出てきたりと
- 成長を観察することができた。

▶冬期活動

[活動名]

「楽しい楽しいふゆやっすみ〜ゲーム」

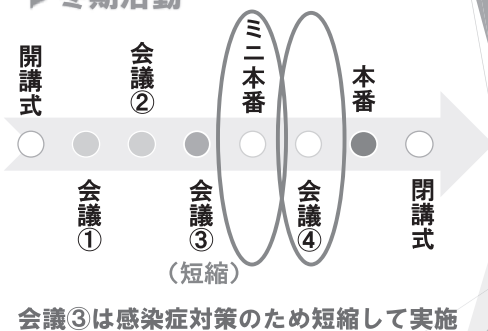
[活動内容]

2班で4つのレクリエーション

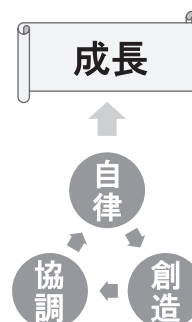
(1班 雪合戦、カップインゲーム

2班 うばあいゲーム、バケツリレー)

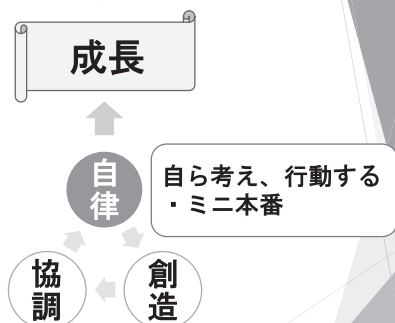
▶冬期活動



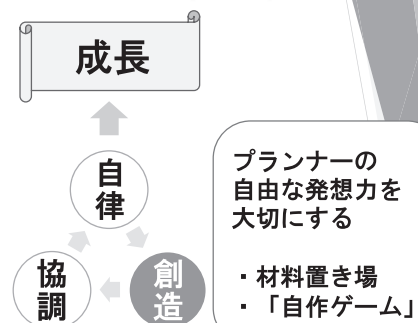
▶冬期活動目標



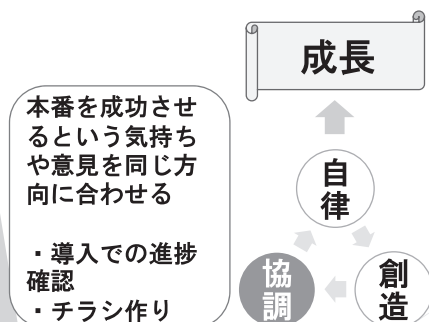
▶冬期活動目標



▶五福プランナー班年間目標



▶五福プランナー班年間目標



▶会議①での支援 (創造に向けた支援)

いきなり自作ゲームを作るのは難しい

学生が事前に自作ゲームを作り、プランナーに体験してもらう

・プランナーが自作ゲームのイメージを持ちやすくなった
・学生のゲームのアイデアがプランナーのゲームにも取り入れられた

▶自作ゲーム(創造に向けた支援)

学生が制作したゲーム



▶自作ゲーム(創造に向けた支援)

プランナーが制作したゲーム



▶ミニ本番(自律に向けた支援)

プランナーに自作ゲームの問題点に気づいてほしい

- ・育成クラブの子ども6人がお客さんとして参加した「ミニ本番」の実施
- ・アンケートの実施

プランナー自身が問題点に気づいて、納得してゲームを改善することができた(自律)

▶ミニ本番とその結果 (自律に向けた支援)

ミニ本番



▶ミニ本番とその結果 (自律に向けた支援)

本番



▶冬期の活動を通して

- ▶ 本番では積極的にお客さんに声をかける姿が見られた
→ 自律の達成
- ▶ 自作ゲームをほとんどプランナー自身で完成させることができた
→ 創造の達成
- ▶ プランナー同士が仲良くなった
→ 協調の達成

ご清聴ありがとうございました。



2023年度 五福プランナー班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 本 村 優 奈

今年度の五福プランナーの年間目標は「成長」であり、2ヶ月の夏期活動ないし1年間の活動を通して「終了時にプランナーの子どもが成長していること」を目標としました。その目標を達成するために、前期では学生のこういった支援がプランナーの成長に繋がるかという観点で「継続的な支援」と「連携的な支援」という2つの夏期活動の目標を設定しました。「継続的な支援」にはその場での臨機応変な行動だけが支援ではなく、前回は踏まえた今回、今回は踏まえた次回というように、継続的にプランナーの子どもと向き合い、支援を考えていくという意味が込められています。連携的な支援には学生とプランナーの一対一の関係性では、サークル活動としての意味に乏しいと考え、複数の学生が多様な場面でプランナーと関わる機会づくりがサークル活動として子どもと関わる利点となりうると考えました。

この目標を達成するために行った具体的な支援は3つ挙げることができます。まず1つ目に昨年度も行われていたプランナーに書いてもらう振り返りシートに改善を加えました。項目を統一する、活動後に書いてもらったものを一旦回収して次回の活動の開始時にフィードバックを学生が書いた上で渡すなどしたことによってプランナーが自身の成長を可視化された状態で意識することができるようになりました。実際にプランナーが書いた振り返りシートには「前回の活動で次回こういったことを頑張りたいと書いたので、今日はこういったことを心がけた」や「今回はこういったことが上手くいかなかったので次回はこういうことに気をつけたらうまくいくと思う」などというように学生からの声掛けではなく、自分の力で継続した活動の中での成長を意識して行動する様子を見ることができた。2つ目に話し合いの記録化があります。プランナーが行った会議で使用したホワイトボードや学生が活動後に行った反省会で出た内容などをしっかり写真などの記録に残す、かつその記録を次回の活動時にプランナーがすぐに確認できるような環境を整えました。プランナー活動は活動頻度、活動期間の長さといった点からしても全ての活動に全てのプランナー・学生が参加するのは難しいという現実がありますが、記録を残すことを徹底することで、前回休んだ人も今回の活動にスムーズに参加できるという継続的な支援を行うことができました。また、前回支援を行った学生が休んでいても、他の学生が記録を見ながら同様の支援を行うことができるという点で様々な学生が班付きに入ることができ、複数の学生が行った多様な場面でプランナーと関わり合うという連携的な支援も同時に達成することができました。そして学生側がスムーズに連携を取るという点に重点をおいた取り組みとして3つ目に昼の話し合いの体系化を行いました。活動期間中の昼の話し合いは月曜日であり話し合う内容は「見たい姿」「目的」「めあて」「進捗」であり、水曜日の定例会では仮案のタイムテーブルを確認した上で主に支援について話し合うというように話し合いの日程、内容を事前に明確化させました。それによって学生側も予定を立てやすくなり、参加率を維持することができました。参加率が高い話し合いでは、話し合った内容を把握できている人が多くなり、活動中も目的や見たい姿を学生間で共通して念頭に置いた上で、個々で支援を連携的に行うことができました。

夏期活動を通して、第一にプランナーの成長を見られたことが大きいと考えています。積極的に発言してくれるようになった、お客さんのことを意識した発言が出てきたといった分かりやすい成長のみならず、その背景としてプランナーが次回はこういったことを心掛けたいというように意識して成長していったことが大きな成果です。また、学生側に関してはプランナーの成長に対して話し合いなどの参加率の維持によって同じ方針を持って活動に取り組めたことが大きかったと考えています。また、結果的には前期終了時点でお休みした人などもおらず、後期に向けて班員一同が前向きに捉えていたことも、良かった点であると言えます。プランナーという活動頻度も多くどうしても負担が大きくなりがちな班形態の中でも少しでも負担が少ない形を模索して活動できました。

2023年度 五福プランナー班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 大原 菜々子

今年度の五福プランナー班の目標は「成長」である。この年間目標を達成するために後期では、「自律」「協調」「創造」の3つの目標を立てた。これらの3つの目標を達成することで、年間目標の「成長」につなげようと考えた。「自律」には、自ら考え、行動するという意味を込めた。その取り組みとして、ミニ本番を行い、プランナー自身で課題を見つけ改善していく姿を見たいと考えました。「創造」には、プランナーの自由な発想力を大切にするという意味を込めた。具体的には、材料置き場を作ってプランナーが自由に材料を組み合わせて想像を膨らませられるようにした。また、冬期の活動のテーマを「自作ゲーム」にすることで、プランナーの発想力を大切にしたい。「協調」には、本番を成功させるという気持ちやプランナーの意見を同じ方向に合わせるという意味を込めた。毎回の活動の一番初めに導入の時間を設定して進捗状況を確認したり、チラシ作りをしたりした。

ここからは、これらの3つの目標を達成するために行った支援について報告する。

私たちは冬期の活動のテーマを「自作ゲーム」と設定した。夏季は既存のゲームからレクリエーションを考えていったが、そこからパワーアップして、冬期ではプランナーに一からゲームを考えてもらった。しかし、小学生にとって何もない状態でいきなり自作ゲームを作るのは難しいと私たちは考えた。そこで、学生が事前に自作ゲームを作り、プランナーに体験してもらうことにした。この支援の結果、プランナーは自作ゲームのイメージを持ちやすくなり、スムーズに話し合いを進めることができた。また、学生のゲームのアイデアが実際にプランナーのゲームにも取り入れられる様子も見られた。

次に、新たな取り組みとしてミニ本番を行った。学生が問題点を出して改善するところを伝えるのは簡単だが、プランナー自身が問題点に気づき、改善してほしいという思いがあったので、このような時間を設定した。ミニ本番には育成クラブの子ども6人がお客さんとして参加してくれた。この6人のお客さんにも簡単なアンケートを取り、お客さん目線の情報も用意した。このミニ本番を通して、プランナー自身が問題点に気づいて納得してゲームを改善することができた。

そして、もう一つ新たにチラシ作りも行った。これまでは学生が作っていたが、プランナー主体で活動を作り上げてほしいという思いを込めて、今回はプランナー自身に作ってもらった。チラシ作りでは、まず、チラシ作りの手段としてタブレットか紙媒体の2つの選択肢を用意した。プランナーに話し合ってもらった結果今回はタブレットを使うことになった。また、何もない状態でチラシを作るのは難しいと考えたので、チラシに必要な項目とチラシの構成をチラシ作成の前に学生と一緒に決めた。このチラシ作りを通して、プランナー同士で話し合いながらチラシを作る姿を見ることができた。また、本番の名前を決めること、お客さんの学年やゲームの内容を再確認することができ、本番をさらに意識することができた。

冬期の活動を通して、本番では積極的にお客さんに声をかける姿が見られた。また、自作ゲームをほとんどプランナーだけで完成させることができた。そして、休憩時間も一緒に遊ぶなどプランナー同士が仲良くなっている姿を見ることができた。このような様子から、「自律」「創造」「協調」という冬期の目標が達成でき、年間の目標である成長にもつながったのではないかと考えている。

2023年度 東部プランナー班 活動報告

前期班長：嶋 美織
後期班長：鶴田 侑士

プランナー活動について

会議



準備



本番

プランナー(小学校高学年)
1年間を通して、
レクや工作を企画・準備する

プランナーが
お客さん(小学校低学年)を
おもてなし

活動内容

プランナー 17名(小学4～6年生)

夏活動

開講式
会議①・②・③・プレ
夏活動本番

防災合宿

会議①・②・③・プレ
冬活動本番
閉講式

冬活動

東部プランナー班 年間目標

『自主・尊重・向上』

- 自主** 自主的にすすんで取り組む
- 尊重** プランナー同士の協力と尊重
- 向上** お客さんを意識し、
より良いおもてなしを目指す

東部プランナー班 年間目標

より良いおもてなしを目指す



夏活動について

【活動名】

夏だよ！全員集合！東部なつまつり

【活動内容】

- 小学校1～3年生約40名
- レクリエーション
- 四班にわかれ、
魚釣り・なぞとき迷路・わなげ・射的

「自主」のための支援

本番まで見通しをもって進める姿のため

支援

計画のシート配布

- ・ 工作に使う材料
- ・ その日作る
目標個数
を記入



結果

- 進度を振り返りながら計画的に進める姿
- 時間が足りるか考える姿

「自主」のための支援

作るのに必要な材料

作る目標個数

つりざお 9 個作る！
しよろろ 15 個作る！
魚 20 個作る！
ワイズ 5 個作る！
おりざめ 18 個作る！
せつめい 7 個作る！

「向上」のための支援

お客さんをイメージして準備する姿のため

支援

本番に近いプレ

流れ通りではない
行動をお客さん役
の学生がとる



結果

- 本番に学生の進行が少なくなった
- プランナーが説明・判断

支援の様子

本番前のプレで、お客さん役の学生を
魚釣りクイズのグループに分ける場面

注目点：

お客さん役の学生全員が
「魚釣りを先にしたい」と言った時の
子どもたちの対応

「向上」 本番に近いプレ



前期の活動を通して

	良かった点	後期に向けての課題
自主	<ul style="list-style-type: none"> ● 役割を進んで担う ● 会議で意見を出す 	● 伝え「合う」段階は未達成
尊重	<ul style="list-style-type: none"> ● 相手の意見をきく ● 相槌をうつ姿が多い 	
向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の役割を臨機応変に果たす 	● 待ち時間など役割以外の時間はお客さんに話しかけるのが難しかった

防災合宿について

【めあて】

防災について楽しく学び、
プランナーの仲を深めよう

【活動内容】

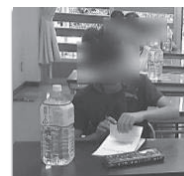
- 一泊二日 避難所用テントで宿泊
- バッククックや防災食による食事
- 講師による風水害24ゲーム体験
- 防災に関するクイズやレクリエーション

防災合宿について

バッククック



限られた水で
生活する体験



冬活動について

【活動名】

「冬でもアツアツ！

東部クリスマス劇場」

【活動内容】

小学校低学年約60名

- レクリエーション2つ・劇2本
- 「大きなかぶ」「ももたろう」をクリスマスをテーマにアレンジ
- お客さん参加型の劇を行う



「自主・尊重」のための支援

会議で積極的に意見交換をしている姿

支援

- 意見交換のため
アドバイス
シートを配布
- 学生のサポート
(声かけ)



結果

- 劇やレクの
良い点・改善点を
進んで伝えあう姿
- 他の班からの
意見をもとに
改善する姿

支援の結果

(アドバイスの画像)

注目点

劇の練習を見て意見を交換する際、
紙に相手に伝わるように具体的な
「アドバイス」を記入している姿

身振り手振りを
していて良かった

アドバイスシート

劇を見て・・・ (2) 班 アドバイスシート

1. よかった! 2. もっとこうしたいところ!

① 良かった! 身振り手振りをしていたのが良かった。

レクリエーションをしてみても・・・

1. よかった! 2. もっとこうしたいところ!

② 良かった! 説明をいやすものも、レクリエーションをやっていくと、楽しんだほうが良いと思った。

アドバイスシート

劇を見て・・・ (1) 班 アドバイスシート

1. よかった! 2. もっとこうしたいところ!

あ、皆さんの方を見ていたのは良かったけど、しゃべるときに「えっと、」をなくした方が良かった。

レクリエーションをしてみても・・・

1. よかった! 2. もっとこうしたいところ!

せつめいがよくわかったし、低学年の子どもにしているような感じがした。

お客さんを見ていたのは良かったけど、
しゃべるときに「えっと、」
をなくした方が良かった

実際の劇の映像



「自主・向上」のための支援

本番でおもてなしを進んで実行している姿

支援

- 本番の流れの紙を配布
- 本番を想定したプレを行う

結果

- 学生のサポートする機会が減り、臨機応変に対応
- 進んでお客さんと関わろうとしていた

支援の結果

注目点：

レクが早く終わり、時間が余ってる中で、新たなレクを自分たちで考え、お客さんを楽しませようとしている姿

みんなで「じゃんけん大会」



冬の活動を通して

○ 反省点

- ・「劇」、「レクリエーション」と内容が多い
⇒ 負担が大きい
- ・時間の確保が不十分だった
⇒ 意見を十分に反映させなかった

○ 良かった点

- ・前期で未達成だった部分を達成できた
- ・「自主・尊重・向上」の面で成長。

一年間の活動を通して

自主・尊重・向上

絆・達成感・成長

- 自分も楽しむ
- お客さんを意識して企画する
- 意見を伝え合う
- 絆が深まる
- 自分の役割を臨機応変に果たす
- 意見を伝える

開講式

夏活動

防災
合宿

冬活動

閉講式

ご清聴ありがとうございました



前期本番

後期本番



分科会の様子

2023年度 東部プランナー班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 嶋 美 織

今年度の東部プランナー班の年間目標は、「自主・尊重・向上」とした。自主には、「自分から」という意味を、尊重には、「互いに」という意味を、そして向上には「お客さんを意識したより良いおもてなしを目指す」という意味を込めた。この三つを目指して活動することで、プランナー活動が子どもたちにとって、社会とつながり、活躍できる場になり、成長やその後の財産としてつながると考え、この年間目標を設定した。

夏活動では、「夏だよ！全員集合！東部なつまつり」という活動名で、プランナーがレクリエーションでお客さんをおもてなしした。プランナーは4班に分かれ、それぞれ魚釣り、謎解き迷路、わなげ、射的を企画・準備した。

前期活動の中で行った支援について、二つ述べてい

一つ目に、本番まで見通しをもって進める「自主」の姿のために、工作に必要な材料、活動ごとに作る目標個数を記入する紙を配布した。学生による計画にそってただ動くのではなく、本番までの計画を考えながら自主的に取り組んでほしいと思ったためである。プランナーは、実際にこの紙に「輪投げの輪をつくるために新聞紙がいる」「つりざおを次回は9個つくる」など記入していた。この支援によって、進度を振り返りながら計画的に進める姿、時間が足りるか考える姿が見られ、雨のために活動が中止になった時には、作ることを予定していた景品を作り終わっていなかったことをプランナーが自ら憂慮し、家庭で作って持ってきてくれるということもあった。会議で見通しをもって活動することで、より自主的な活動になったと考えている。

二つ目の支援として、お客さんをイメージして準備する「向上」の姿のために、より本番に近いプレを行った。学生がお客さん役をする際に、流れ通りではない行動をとって、プランナーが小学校低学年のお客さんをより鮮明にイメージできるように工夫した。例えば、魚釣りと平行してクイズを行う予定だった班では、クイズと魚釣りのどちらを先にするか10人のお客さんをグループわけする必要があった。ここで、お客さん役の学生は全員「魚釣りがしたい」とプランナーに伝えた。これに対して、プランナーは「じゃんけんしてください」「私に勝った人だけ残ってください」など事前に用意した進行の紙とは異なる状況に臨機応変な対応をしていた。この支援によって、実際の本番では、学生の進行が少なく、お客さんにプランナーが判断して説明している姿が多く見られた。

夏活動を通して、プランナーの子どもたちは、初めは緊張した様子で会議に挑んでいたが、次第に自分の意見を伝えるようになり、本番には班のプランナー同士で協力しながらお客さんをおもてなししていた。どの班のレクリエーションでも、プランナーからお客さんに「すごい！上手だね」「おいしい！」など声をかけていた姿から、プランナーが大きく成長したことを感じた。

夏活動と冬活動の間には、公民館で一泊二日の防災合宿を行った。パッキングによる調理や防災食での食事、講師の先生による風水害24ゲーム、防災に関するクイズやレクリエーション、避難所用テントでの宿泊を行い、子どもたちにも学生にとっても、避難所や災害時の対応について学ぶよい機会となったと感じた。また、一泊二日を通して、子どもたちはより一層絆を深め、表情も打ち解けたものになった。後期の活動を行う上でも、この防災合宿による絆や尊重し合える関係の地盤は大きな意味を持ったと感じている。

前期活動、防災合宿をとおして子どもたちの大きな成長を感じた。

2023年度 東部プランナー班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 鶴田 侑士

冬活動では、「冬でもアツアツ！東部クリスマス劇場」という活動名で、小学校低学年約60名のお客さん集め、プランナーが劇とレクリエーションを行いました。本番の活動では、劇は「大きなかぶ」・「ももたろう」をクリスマスバージョンにアレンジし、お客さん参加型で行いました。また、劇の前に二つのレクリエーションを行い、お客さんを盛り上げました。

次に支援です。冬の活動では更なる成長の期待のために、これまで個別の視点から見ることの多かった「自主・尊重・向上」を横断的に捉え支援を考えました。また、支援は「会議」と「本番」に分けて述べます。

最初に会議の支援についてです。会議の中で積極的に意見交換するという「自主・尊重」のために、意見交換の「アドバイスシートの配布」と「学生の声掛け」を行いました。その結果、進んで劇やレクのよい点、改善点を伝えあう姿が見られました。具体的な結果では「身振りてぶりをしていたよかった。」「お客さんを見ていたのは良かったけど、しゃべるときに『えっと、』をなくした方が良い。」などのより相手の劇がよりよくなるアドバイスを配布した紙に記入していました。

次に本番での支援です。本番ではおもてなしを進んで実行している姿、「自主・向上」のために、本番の流れの紙を配布し、本番を想定したプレを行いました。その結果、学生のサポートする機会が減り、自分の役割以外にも目を向け、臨機応変に対応する姿や、進んでお客さんと関わろうとする姿が見られました。具体的な結果としては、予定よりもレクが早く終わり時間が余っている状況で、新たなレク（じゃんけん大会）を自分たちで考え、お客さんを楽しませようとしていました。このように前期の本番活動では、レクの進行など自分の役割に集中する場面が多かったですが、後期では自分の決められた役割以外にも、お客さんの待ち時間や休憩時間に積極的に関わる姿を見ることができました。

最後に冬の活動を通しての反省点と良かった点について述べます。反省点は活動内容が多かったため、プランナーへの負担が大きかったと感じました。また、時間の確保が不十分だったため、プランナーの意見を十分に反映することができなかった点です。改善策としては、活動の見通しを細かく持ち、メリハリのある声掛けを行うことだと感じました。良い点では年間目標である「自主・尊重・向上」の面で大きな成長を感じることができました。そして、前期で未達成だった部分を後期の活動で大きく達成出来た点です。

2023年度（令和5年度）
熊本大学教育学部フレンドシップ事業シンポジウム・分科会開催要項

日時： 2024年（令和6年） 2月29日（木） 10:30～16:15

場所： 熊本大学教育学部 5－A 教室

[午前の部：シンポジウム 教育学部5－A 教室]

1. 開会挨拶 10:30～10:40

熊本大学教育学部長

藤田 豊

2. メイクフレンズ活動の実施報告 10:40～11:45

(1) メイクフレンズ活動全体の振り返り

メイクフレンズ船長

緒方 美優

(2) 班活動の振り返りとコメント

メイクフレンズ「中央ホール班」班長

（前期）緒方 美優

（後期）湯浅まつり

メイクフレンズ「秋津ホール班」班長

（前期）築山 明宗

（後期）瀬崎 那月

メイクフレンズ「南部・幸田単発班」班長

（前期）出口みのり

（後期）濱崎 麻衣

メイクフレンズ「五福プランナー班」班長

（前期）本村 優奈

（後期）大原菜々子

メイクフレンズ「東部プランナー班」班長

（前期）嶋 美織

（後期）鶴田 侑士

熊本市中央公民館社会教育主事

西村 博生

熊本市秋津公民館社会教育主事

兒玉 見季

熊本市南部公民館社会教育主事

宮崎 淳

熊本市幸田公民館社会教育主事

森田 欽也

熊本市五福公民館社会教育主事

松田 克彦

熊本市東部公民館社会教育主事

村田真由美

3. 連携協力機関関係者からのコメント 11:45～11:55

熊本市文化市民局市民生活部生涯学習課社会教育主事

魚住 敏彦

4. 修了証授与並びに閉会挨拶 11:55～12:05

熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長

山城 千秋

[昼食]

[午後の部：学生自主企画分科会 教育学部5-A 教室]

5. 学生自主企画分科会 14:00～16:15

開会挨拶

分科会実行委員長

甲斐 董

【分科会における目的と目標】

今回の分科会では、目的を「メイクフレンズの活動をレベルアップするための取り組みを考える」とした。今年度は、感染症による制限がほとんどない状態で子どもたちと活動を行うことができ、従来の活動をどの学生も経験することができた。そのため、次は子どもたちとの活動をより充実させたいと考え、この目的を設定した。分科会の中では、各々が感じている活動の中の課題や困りごとを、議題に沿って共有、議論することで、課題の克服や困りごとの解決に繋がる策を講じたいと考える。

また、この目的を達成するために、「互いの意見を尊重し、自分の役割を意識して話し合う」ことを分科会における目標とした。班や学年、役職の異なる学生同士が意見を交わし、それぞれが尊重し合うことで、多くの学生に合ったかたちで活動のレベルアップを図ることができると考えた。

そして、今回出た意見は、今後のメイクフレンズの活動のレベルアップのために活用していきたい。そのためにも、積極的な意見交換が行われることを切に願っている。

- 14:00～ 開会式（5分）
- 14:05～ 第一部意見交換（45分）
- 14:50～ 休憩（15分）
- 15:05～ 第二部意見交換（45分）
- 15:50～ アンケート記入（20分）
- 16:10～ 閉会式（5分）